

Green Greetings

from 170 A Bombed Trees in Hiroshima 「緑」の伝言。



Green Greetings

こころの柱だったイチョウは、建物の一部になりました。

この木は切っちゃあいかん。緑の復興を願った一人の住職の思いを受け継ぎ、建物の一部となって生き続ける木があります。

報専坊の境内で、今年も生き生きとした緑をたたえる一本のイチョウ。65年前の8月6日、爆風で倒壊した報専坊の本堂は、熱線をささぎったこの木のおかげで延焼をまぬがれました。

焼け野原にぼつんと立つ黒焦げの木に、やがて芽吹いた奇跡のような緑。たくましく生きぬいたイチョウは、いつしか人々の希望を支えるこころの柱になりました。

1993年、本堂の再建計画が動きだしたとき、戦前より狭くなった境内にイチョウをめぐる難題が立ちはだかります。木が大きすぎて移植には耐えられん。

なんとか今のまま残せんものか。それならば……と、イチョウをやさしく抱きかかえるように階段を付け、風通しを良くして生きた土を残す、新しい本堂の設計図が出来あがったのです。

その年、報専坊のイチョウは広島市の被爆建物等台帳に被爆樹木として登録されました。ずっと同じ場所で生きている被爆樹木は少ないため、とても貴重な証人です。

この木の下で遊んでいた、たくさん子どもたちを見送り、75年間は草木も生えないといわれたまちの復興を見つめてきた。被爆樹木を守り伝えていくのは、明日を生きる私たちです。

A-Bombed Trees MAP

